

福澤桃介 ふくざわ とうけい 實業家。慶應四年六月十五日武藏國入間郡川越生れ、
昭和十二年二月十五日歿（八六一―九三六）。舊姓岩崎。號文久錢老人。
明治二十年福澤諭吉の次女の嫡養子となり、のち分家。慶應義塾卒。
株式賣買の巨利を得、電力界に活動。大正九年大同電力を設立。歌人
杉浦翠子の實兄。

著書に『桃介式』（明治四十四年十月五日實業之世界社）、『無遠慮
の申上候』（大正元年十月二十八日實業之世界社）、『桃介は斯くの
如し』（大正二年十月二十日星文館）、『子の致富術』（大正五年十
月十一日東岳堂書房）、『狸の腹のツミ』（四版・大正七年三月十八
日昭文堂・文武堂）、『槍ヶ岳を中心として』（大正十二年七月二十
八日ダイヤモンド社）、『財界人物找観』（昭和五年二月十一日、鏡
後奉仕版・十二年十一月二十一日ダイヤモンド社）、『桃介夜話』（昭
和六年五月十五日先進社）、『西洋文叢の没落―東洋文叢の勃興』（昭
和七年二月十一日ダイヤモンド社出版部）等。宮寺敏雄著『財界の鬼
才―福澤桃介の生涯』（昭和二十八年十二月二十日四季社）がある。

